

絆のドングリ「育ててね」

石川の児童に苗託す

久之浜の防災緑地に植栽へ

木村協議会長(左)と仲田社長から苗を受ける福田君(手前)と木戸君



ドングリを復興の絆に。震災後、いわき市久之浜地区で採集され石川町で育てられたドングリを、同地区の防災緑地に植栽する石川町教委の「ドングリの絆プロジェクト」が14日、本格始動した。同日、ドングリの苗を育てる同町の小学生に苗が託された。苗は来秋、防

災緑地に植栽される予定。

石川町と久之浜地区は震災後、両地区で行われるイベントにそれぞれ参加するなど交流を続けている。ドングリは昨秋、久之浜地区の住民が集め、2月に石川町に寄せた。その後、同町の仲田種苗園(仲田茂司社長)で育てられた。

この日は、石川小に町内全8小学校から6年生が集合。仲田社長と久之浜地域づくり協議会の木村芳秀会長が、石川小の木戸琢馬君、福田怜央君ら各校の代表にドングリの苗を手渡した。児童代表の遠藤優歩さん(石川小)が「防災の役に立てることはうれしい。心を込めて育てたい」とあいさつした。久之浜地区の防災緑地については、来年度からクロマツなどの植栽作業が本格化する予定。

ふくしまの明日を見つめて

津波被害に理解

ドングリの絆プロジェクトに合わせて石川小で14日、防災教育が行われ、児童が防災緑地の意義と津波被害について学んだ。

いわき建設事務所の前野明氏が久之浜地区の防災緑地の概要について説明。震災時に久之浜一小の校長だった松本光司好間一小校長が津波被害について説明した後、石川町民が震災直後に久之浜地区民を支援したことに触れ、「石川町民の温かい心は忘れない」と感謝の気持ちを述べた。昨年



松本校長(左)から津波被害の様子を聞く児童ら

11月からは久之浜一小、久之浜二小でもドングリの苗が育てられている。